

指導事例

指導事例	<p>1 学年</p> <p>文字を読むことに苦手さがある児童の指導</p>
対象児童の実態	<p>入学当初、平仮名は読めない字が多かった。似ている平仮名を間違えて読むこともあった。平仮名を習得後も、2文字以上の単語になると、1文字ずつの拾い読みになってしまう。拗音・促音の平仮名の読みも習得に時間がかかる。文章での読みは、1文字ずつたどって読むため、文の意味を捉えることは難しい。</p>
指導のねらい	<p>○平仮名を正しく読むことができる。</p> <p>○文字をまとまりで捉えて読む力を高める。</p>
指導の形態・流れ	<p>通級指導は個別指導 週1回1時間の実施</p> <p>文字を読む力を高めていけるよう、段階的に指導をしていく。</p> <p>〈平仮名1文字→単語2文字→単語3文字…→促音→拗音読み→言葉のまとまりを見つける課題→短い文章の読み練習…〉</p>
指導経過	<p>平仮名を1文字ずつ読む練習を行い、読めるようになってからは、単語をまとまりで読む練習に移行した。1文字ずつの拾い読みになるため、繰り返し練習を行ってきた。まとまりで読むことができる単語が増えてからは、拗促音の読みの練習も行うようにした。また同時に、国語の教科書で扱われる文章の中の単語も取り挙げて、読む練習を行った。</p>
指導の成果と課題	<p>1回に提示する課題の量を調整したり一つの課題に取り組む時間を短く区切ったりすることで、モチベーションを保てるように気を付けた。読む練習で取り組む単語の文字数を2文字、3文字と少しずつ増やしていった。少しずつ読むスピードが速くなり、見てすぐにまとまりで捉え滑らかに読むことができる単語が増えた。</p> <p>国語の学習に出てくる単語を予習的に取り挙げて練習することで、国語の学習への抵抗感を少し緩和することができた。</p> <p>通級指導の中で取り上げたことのない単語や生活の中で馴染みの少ない言葉は、滑らかに読むことができるようになるには時間がかかる。</p>